

令和4年度 学校だより 8・9月号 8月26日発行

横浜市中区山元町3-152
電話 641-4857



やまもと

横浜市立山元小学校
校長 前島 潤

自分を大切にできる子 共に生きる子 山元の子

10本のろうそくと子どもたちの思い

校長 前島 潤

約1か月に渡る夏休みが終わりました。子どもたちが元気に登校し、さびしかった学校には、血液が一気にめぐるかのように活気が戻りました。

コロナ禍が続く夏休みでしたが、子どもたちは、家庭で、地域でどのような成長をとげたでしょうか。学ぶ機会は、学校に限らず、自然や社会の中にたくさんあります。その意味で、自分の時間を多くもつことができる夏休みは、自分の手で知識や興味・関心、経験を増やすチャンスでもありました。子どもたちが休み中に取り組んだ自主学習の成果物を鑑賞したり、出来事や思い出を聞いたりしながら、一人ひとりの成長を実感したいと思います。

7月の話になりますが、6年生が修学旅行に行っていました。群馬県の片品村に宿泊し、栃木県日光の自然や歴史にふれる1泊2日の修学旅行。1年生が作ってくれたお守りの効果なのか、天気予報が悪い中、雨に降られる場面が少なく、充実した修学旅行を行うことができました。

その中で、私が最も心に残った場面についてお伝えします。キャンドルファイヤーです。本来はキャンプファイヤーの予定でしたが、小雨が降っており、宿舎の方のご厚意で体育館を使用してのキャンドルファイヤーとなりました。宿舎の方は、場所の提供だけではなく、子どもたちを、会場となる体育館まで小型バスでピストン輸送してくださいました。歩いたら30分間程かかる道のりを、行き帰りで往復6回。ありがたいことです。

セレモニーでろうそくに火が灯り、キャンドルファイヤーの始まりです。ゲームや歌、ダンスが行われ、雰囲気は徐々に盛り上がっていきました。最も熱が入った

のは、「ジンギスカン」のダンスでした。アンコールもあって2回。どの子も思い切って体を動かし、汗びしょびしょです。みんなよい表情をしていました。なかなか教室では見ることのできない表情でした。最後は歌、「コスモス」の合唱。10本のろうそくを中心にして、円を描くように並んだ子どもたちの美しい歌声が広い体育館に響きました。「素敵だな。」私は素直にそう思いました。

スマホが無かったって、ゲームが無かったって、10本のろうそくと子どもたちの思いだけで、こんなに素敵な時間を過ごすことができるのです。6年生のキャンドルファイヤーを通して、楽しみや幸せは与えられるのものではなく、自分、自分たちでつくるものであるということを改めて考えました。

9月1日、2日には、静岡県の御殿場で、4年生と5年生合同の宿泊体験学習が行われる予定です。学校を、そして家庭を離れ、貴重な体験を重ねる2日間になると思います。6年生同様に素敵な時間を過ごしてほしいと願っています。

【山元小夏休みニュース】

新しい仲間

職員玄関脇のメダカ池にお客様が来ていました。ヒキガエルです。あまりの暑さに耐えかねて、池で体を冷やしていたのでしょうか。私の校内生き物観察記録では、初の両生類です。春にはメダカ池やトンボ池でヒキガエルのオタマジャクシを見ることができるとでしょうか。



実りの夏

2年1組は夏休み中もスイカとメロンの栽培を続け、実りの夏となりました。スイカは甘く、とてもおいしかったです。5年生は、バケツ稲の水やりにがんばりました。8月上旬には稲の花が咲き、稲穂が観察できました。秋の実りが楽しみです。

